彼方【かなた】

校長通信
H29.11.17
Vol.18

【応援するということ】

男子は、東葛駅伝二連覇に続き、県駅伝も二連覇、女子は、県駅伝二十四年ぶり二度目の優勝、そして男女アベックで全国大会出場を決めました。本当に素晴らしい結果を残しました。これは、野島（悠）部長の「挑戦者として臨む！」という決意が、駅伝強化選手や部員の気持ちをひとつにし、最後までしっかりと練習に取り組む原動力となっていたと思います。それが本番でのひたむきで誠実な走り（真摯さ）につながり、大会新記録を生み出す結果となって表れたのだと思います。

その後、卓球男子、葛南四連覇、吹奏楽部、アンサンブルコンテスト金賞受賞と続き、学校全体に活力を与えてくれています。賞に入らずとも毎日熱心に活動している仲間が沢山います。部活動だけでなく、３年生の学習での頑張り、進路実現に向けての取り組みも目を見張るものがあります。

これらは、当事者の頑張りは当然ですが、それを支えている家族や同じ部活の仲間、学級の仲間、先生方、地域の方々等、多くの支えによって実現しているのです。ところが自分だけの頑張りであったり、他との関わりに目がいかなくなってしまったりすることもあります。その気はなくてもそういう言動を取ってしまうことがあるのです。学校は、人との関わりを学ぶ場所でもあります。その中でお互いに支え合っていることを意識できなくなってしまってはとても悲しいものがあります。

白山中学校では、開校当時から「人間教育」を目指し、「みがき合い・支え合う、心豊かでたくましい生徒の育成」を掲げています。学校対抗の駅伝大会（東葛駅伝大会）や学校対抗の音楽発表会に向けて強化メンバーを組織し、全校での応援を続けているのも、「みがき合い・支え合う…」学校教育目標を目指しているからです。開校当時はまだ東葛管内の学校数もさほど多くはありませんでした。全部の学校が沿道に散らばって応援することもできました。ところが時代とともに交通事情や輸送の問題、生徒指導の問題等が噴出し、全校応援ができなくなってしまった学校も数多く出てきました。一旦なくなると再び作り上げるのはなかなか大変です。しかも手間暇のかかる全校応援をあえて復活させようとする学校はほとんどありません。幸いなことに我が白山中学校は、全校応援に価値を見出し、今まで途絶えることなく、形を変えながら現在まで続けてきているのです。それは、東葛駅伝が部活対抗ではなく、学校対抗だからです。男女を問わずどの部活動からでも選手として選ばれる可能性があるのです。そのため管内七十一校の中学校が、ひとつも欠けることなく参加する大会となっているのです。そういう大会にスポットを当て、皆で盛り上げ、全校で応援することに価値を見出しているところに白山中の伝統を感じます。

２０２０年、東京オリンピックが開催されます。ホスト国として多くの選手、応援団を受け入れ、大会の成功を目指していきます。白山中の卒業生がボランティアとして会場でサポートする姿が見られたらこんなにうれしいことはありません。人を応援するという行為は、自分がそこに立つより大きな意味があると思っています。学校教育の持つ「人間教育」がまさに全校応援の中に見え隠れしているのです。

今、三年生の進路選択も山場を迎えました。一人一人がプレーヤーであり、応援団でもあります。個々の進路実現ですが、一人で頑張っていてはたかが知れています。襷をつなぐ駅伝のように団体戦として心をつないでいかなければ良い結果は生まれてきません。改めて応援されていること、応援していることを自覚し、人との関わりの中で自分が生かされていること学んでほしいと切に願っています。